

白山ふるさと文学賞

第一回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生高学年作文の部 最優秀賞

## わたしの夢

松任小学校六年

小中 里紗

受賞の言葉

白山ふるさと文学賞（最優秀賞）という素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。自分でも驚いています。とてもうれしかったです。今回、賞をいただいたことで勇気がわき、これからも夢を目指して頑張ろうと思います。

わたしの夢は、子供の病気を治す医師になることです。医師は病気の人や、重傷や軽傷の人を一生けん命に、手あてをし、休む時間がなかったとしても一人でも多くの人の命を救うためにがんばります。自分のことよりも病気の人のことをゆうせんし、その人の病気を治すにはどうすれば良いのか、何をすれば良いのか、つねに休まずに考えています。

なぜ、子供の病気を治す医師になりたいかという、妹がかわさき病という病気に以前かかったことがきっかけです。二年ほど前のある夜にとつ然妹が高熱を出して、近くのお医者さんに診てもらったところ、すぐに大きい病院へ行くように言われました。いろいろ検査を受けたところ血液の病気で放っておくと心臓にえいきょうを受けてしまうとのことでした。すぐに治りようを始めれば、心臓にも問題ないだろうと説明を受け、さっそく治りように入りました。妹は、まだ小さいのに大きくて針がとて太い注射を一日二回も打っていました。お医者さんは、やさしく妹に「今日も注射がんばったね。」と笑顔で言ってくれました。妹はうれしそうにニコッと笑いました。わたしは、そのお医者さんの姿を見て「たのしいなあ。」「すごいなあ。」と思いました。そして、心から安心することができました。その時をきっかけにわたしは医師になりたいと思いました。そして、医師になりたいと思う二つ目の理由は、お母さんが、薬がいしという薬局でお薬をあわせたり、お薬の効果などを説明したりする仕事を勤めていて、医師と同じく、人を助ける仕事をしているのですが、わたしもお母さんみたいに病気の人を助ける立派な人になりたいなとも思っていました。お母さんにお医者さんの仕事について聞いてみました。お医者さんは、かん者さんの病気を治すために、かんご士さん、かいごしさん、薬ざい師さん、りんしょう検査ぎ士さんなどチームになって、そのリーダーとして一生けんめいがんばっていること。日々、技術や薬が進歩し、その進歩についていくこと、さらにその先をひらいていくことが大事で、学んでいこうという努力が必要であ

ると教えてくれました。人のために努力する仕事はすばらしいし、とてもやりがいのある仕事だと思うので、自分もチャレンジしてみたいです。わたしがお医者さんになるためには、まず、医学部のある大学に入らなければなりません。医学部に入るのとはとても難しいそうです。そのためわたしは、今からしっかりと勉強してよい成績になれるようがんばっていかねばならないと思います。

そして、ただ勉強ができて、知識が豊富なだけでは、お医者さんにはふさわしくないと 생각합니다。わたしのかぜを治りようしてくれた先生のように、やさしい心を持っていることが大事だと思います。妹の先生は、かん者さんの心になって治りようしてくれました。とてもいそがしうでしたが、イライラしたり、つかれた姿は全くみせませんでした。今のわたしだったら、自分のことだけいっぱいになって、とても無理だと思えます。でも、かん者さんの立場になって考えられるお医者さんになれるようがんばりたいと思います。

そして、かん者さんの病気を治したりするには、自分の健康管理にも気をつけなければならぬと思います。自分が病気では、かん者さんの治りようどころではありません。バランスの良い食生活を心がけて、体を動かして、こまめにそうじをして、心もすっきりしておくことも重要です。

わたしが、この夢を実現させるために、今自分がやらねばならないことは、いままで以上に勉強をがんばることと、人の気持ちになって考えることです。とても難しいことかもしれませんが、最後まであきらめずに、一生けん命がんばっていきたいと思います。